啓明 男女V

柔道団体

「今までは（3人で戦うべき団体戦を）2人で戦ってきた。優勝できてうれしい」。柔道女子団体は水戸啓明が土浦日大の4連覇を阻み、3人でチームを組んだ団体戦で勝利。2年の大久保唯と河内雪乃は初優勝を心から喜んだ。

決勝は、先鋒戦を一本で奪われ、追い込まれた。続く中堅戦。尾島有香（1年）は、川又千里監督（53）の「大きく柔道を」というアドバイスを思い出した。序盤から果敢に攻め、内股で有効を先取。さらに残り数秒まで攻め続けて優勢勝ち。流れを呼び込んだ。

後輩の頑張りに大将・河内は「自分が勝つ。何かでポイントをとろう」と意気込んだが、先に三つの指導を受けた。技を出し続けても焦りからか決まらない。そこで気持ちも技も切り替え、「いつもとは逆方向からの一本背負い」で有効を奪って逆転勝ちを収めた。

昨年は2人で出場した団体戦。今年は1年生2人が入部し4人になった。朝の筋トレ、放課後の練習は男子部員と一緒。今大会は優勝を狙うよりも「土浦日大と戦えたらいいな」（大久保）という思いで臨んだ。無欲さ、がむしゃらさが初優勝につながった。

川又監督は「課題は山積み」と、まだまだ伸び盛りのチームに期待を込める。全国では「一戦一戦を大切に戦う。まずは自分の課題を克服する」と全員が声をそろえ、気持ちを引き締めていた。（坏淳子）

ハイライト

女子 無欲で初の頂点

〈柔道女子団体決勝〉水戸啓明―土浦日大　水戸啓明の中堅・尾島が果敢に攻める＝県武道館

柔道（県武道館）

【男子】

◇団体▽1回戦　鹿島3―2土浦工、那珂湊3―2真壁、下館一3―2茨城東、つくば国際3―2日立北、鉾田一3―1茨城高専、玉造工3―2神栖、古河一5―0明秀日立

▽2回戦　つくば秀英5―0鹿島、明野3―2下妻一、下館工5―0勝田工、鹿島学園5―0東洋大牛久、牛久5―0那珂湊、藤代紫水4―1海洋、多賀5―0岩瀬、磯原郷英5―0下館一、水戸啓明5―0つくば国際、水戸葵陵5―0波崎、岩井5―0結城一、竜ケ崎一5―0鉾田一、土浦日大5―0玉造工、石岡一5―0水海道一、八千代4―1鉾田二、水戸工5―0古河一

▽3回戦　つくば秀英4―1明野、下館工4―1鹿島学園、牛久4―1藤代紫水、磯原郷英5―0多賀、水戸啓明5―0水戸葵陵、竜ケ崎一2―2岩井（竜ケ崎一の内容勝ち）、土浦日大5―0石岡一、水戸工4―0八千代

▽準々決勝　つくば秀英3―0下館工、磯原郷英3―1牛久、水戸啓明5―0竜ケ崎一、水戸工4―1土浦日大

▽準決勝　つくば秀英3―1磯原郷英、水戸啓明4―1水戸工

▽3位決定戦

水戸工　2―2　磯原郷英

※水戸工の代表勝ち

▽決勝

水戸啓明　2―1　つくば秀英

○鈴木優勢　黒田

○黒田優勢　佐々木

小野瀬引き分け野上

絵面引き分け橋場

木戸優勢け富塚○

【女子】

◇団体▽1回戦　石岡一3―0那珂湊、八千代不戦勝つくば秀英、牛久1―1下館工（牛久の内容勝ち）、水戸葵陵3―0岩井、磯原郷英2―1日立商、水戸啓明3―0多賀、総和3―0岩瀬

▽準々決勝　土浦日大3―0石岡一、牛久2―1八千代、水戸葵陵3―0磯原郷英、水戸啓明2―1総和

▽準決勝　土浦日大3―0牛久、水戸啓明2―0水戸葵陵

▽3位決定戦

牛久2―1水戸葵陵

▽決勝

水戸啓明　2―1　土浦日大

大久保上四方　畠石○

○尾島優勢脇本

○河内優勢大塚

※男女とも優勝校が全国高校総体（8月2～6日・千葉）に出場

男子 雪辱果たし7連覇

〈柔道男子団体決勝〉つくば秀英―水戸啓明　積極的に仕掛ける水戸啓明の先鋒・鈴木＝県武道館

○…伝統のチームワークで連覇をつないだ。柔道男子団体の水戸啓明は決勝で、県新人大会や関東大会県予選で敗れたつくば秀英に雪辱し7連覇。絵面佳彦主将（3年）は「連覇のプレッシャーはあった。優勝できてうれしい」と安堵の表情を浮かべた。

流れをつくったのは先鋒の鈴木直樹（同）。「一本を取りにいった」と、左四つから激しく技をかけ合い、払い腰で有効、技ありを立て続けに奪って先勝した。続く次鋒の黒田悠正（2年）の優勢勝ちで王手をかけると、中堅が引き分けた後の副将戦。絵面主将が、体格に勝る相手との組手争いを懸命に制して引き分けに持ち込み、優勝を決めた。

絵面主将は「一人一人がやるべきことをやれた」と胸を張り、「全国8強以上」を目標に猛練習することを誓った。